

第73回  
気仙沼みなとまつり

報 告 書

開催日：令和7年8月2日（土）  
8月3日（日）

気仙沼みなとまつり委員会

## 第73回気仙沼みなとまつり骨子

### ■ 8月2日（土） 会場：港町／内湾会場

初日：港町臨港道路（交通規制…16:00～21:00）

- 「オープニングセレモニー」 17:30～18:00（港町臨港道路特設ステージ）
- 「はまらいんや踊り」 18:00～20:00（港町臨港道路）
- 「露店」 16:30～20:00（旧アベキ様駐車場・岡本製氷様駐車場）
- ☆「ないわん昼市・夜市」 16:00～21:00（南町海岸公園）

### ■ 8月3日（日） 会場：港町／内湾会場

2日目：港町臨港道路・南町海岸公園・気仙沼港内（交通規制 11:00～21:30）

#### 《昼の部》

- 「水上サイクリング」 10:00～13:00（南町海岸公園）
- 「みなとまつりパレード出発式」 11:50～12:00（港町臨港道路）
- 「みなとまつりパレード」 12:00～15:00（港町臨港道路）
- 「カッター競漕大会」 13:30～15:30（内湾・船着き場付近）

#### 《夜の部》

- 「YEG 主管『夕の部ステージ』」 15:00～17:00（港町特設ステージ）
- 「打ちばやし大競演」 17:30～20:30（港町臨港道路）
- 「うんづら」 17:30～20:30（港町臨港道路）
- 「さんま船集魚灯披露」 18:00～20:30（カメイ前岸壁）

協力：第八十一豊清丸

- 「海上打上花火」 20:00～20:30（気仙沼湾内）

協力：芳賀火工

- 「露店」 11:00～20:30（旧アベキ様駐車場・岡本製氷様駐車場）☆
- ☆「ないわん昼市・夜市」 11:00～21:00（南町海岸公園）
- ☆「JC 主管『青少年夢企画』」 10:00～18:00（まつり会場全域）

## 1. 特 徴

- (1) 今年のみなとまつりは、全ての行事を港町臨港道路から内湾エリアを会場に実施した。2日間あわせての来場者数は昨年度と同程度の89,000人となった。
- (2) 世代や立場を超えみんなが一緒になって盛り上げる祭りにするべく「共興祭心」という新たに生み出した言葉をテーマに、広く参加できるような内容を企画し実施した。
- (3) 8月2日（土）は、オープニングセレモニーのあと、まつり行事の第一弾である「はまらいんや踊り」を、港町臨港道路を会場に開催した。長年にわたり楽曲演奏のドラムを担当し、昨年ご逝去されたバイソン片山氏への感謝の言葉を会場の全員が大きな声で響かせて、踊りをスタートした。参加団体数及び人数は、学校の部、サークル・自治会の部、企業の部あわせて49団体、約2,200名であった。
- (4) 8月3日（日）正午からの「みなとまつりパレード」は、港町臨港道路を会場に実施。12団体約580名が参加した。気仙沼市以外の団体として今年から新たに「仙台すずめ踊り」の団体も加わり、みなとまつりを通しての交流が広がった。
- (5) 3日（日）15時からの商工会議所青年部が主管となり実施した「夕の部ステージ」は、市内の子どもたちのダンス発表や地元高校生のバンド演奏、ホヤぼーやとSCKガールズのパフォーマンス、みなと気仙沼大使のFRAM氏の歌唱披露など多様な演出で会場を沸かせた。
- (6) 「うんづら」は、今年も台船の確保が難しく、陸上での披露となった。2日の「はまらいんや踊り」、3日の「打ちばやし大競演」でも、新しく作り直した七福神のねぶたや太鼓の演奏が間近で行われ、ひと際目立つ設えとなった。
- (7) 「海上打上花火」はプログラムを再考。打ち上げ間隔の間延び感をなくすため尺玉の発数を見直し、小・中型花火とスターマインを増発した。20時からの30分間、これまでになかった勢いで、約3,000発を打ち上げ、フィナーレを盛り上げた。
- (8) 初の試みとして、内湾海上の一区画を使用し「まちなかエリアプラットフォーム」のアクティビティの一つである「水上サイクリング」を3日（日）の10時から13時の間で実施した。予定していた組数を上回る36組が体験し、岸壁からの観覧客も含め、多くの家族連れで賑わった。
- (9) 3日には気仙沼青年会議所による協賛行事「青少年夢企画『謎解きイベント』」が開催された。参加者はまつり会場全体に散りばめられた問題の答えを考えながら楽しく会場を巡った。
- (10) みなとまつり協賛金の増収策として「応援提灯」の募集を実施した。気仙沼市外に住む方々からの協賛を主眼としつつも市民からも協力をいただいた。協賛金とあわせて寄せられた応援メッセージを提灯に下げ、「応援提灯」としてPIER10付近に設置。来場者には日本の祭りらしいフォトスポットとしてご利用いただいた。
- (11) 本部付近に設置した仮設コンテナハウスと水産研修センターの一部を利用し、おむつ替えや授乳ができる「子育て応援スペース」を設けた。利用した方々からは好評の声を多くいただいた。

## 2. まつり行事内容について

<8月2日（土）>

### (1) 第73回気仙沼みなとまつりオープニングセレモニー

港町臨港道路に特設したまつりステージで17時30分に開式。司会進行は、地元出身のフリーアナウンサー岩手佳代子さんと気仙沼商工会議所青年部の一色法人さんに務めていただいた。

恒例の（一社）気仙沼青年会議所による勇壮な「銀鱗太鼓」がオープニングを飾り、気仙沼みなとまつり委員会会長の菅原茂市長の挨拶の後、ご来賓の小野寺五典衆議院議員から祝辞をいただき、インドネシア共和国マリア・レナタ・フタガルン臨時代理大使公使の代理としてご臨席されたロディヤ・ハブサンティアラ・モネ参事官からもお言葉を頂戴した。

### (2) はまらいんや踊り（参加49団体、約2,200名）

「はまらいんや踊り」は港町臨港道路を会場に実施し、学校の部、サークル・自治会の部、企業の部から49団体、約2,200名が参加した。開始前、昨年ご逝去されたドラマーのバイソン片山氏へ、はまらいんや踊りでのドラム演奏といったこれまでの功績への感謝を込めて、参加者全員で「ありがとう」と叫び、大きな拍手を送った。

曲の演奏は、小山田和正氏（Drs）、永見寿久（Ba）、岡本優子氏（Pf）、熊谷育美氏（Pf）による「バイソンバンド」が担当し、迫力と熱気にあふれる演奏で踊りを大いに盛り上げた。

ステージ前面では商工会議所青年部のほかに参加団体から募った子供たちの掛け声隊も加わり、元気なかけ声を会場に響かせた。11の打ちばやし団体も威勢のいい太鼓で踊りに花を添えた。

「はまらいんや」の文字通り、まつりを通しての交流拡大を目指した一般客の「飛び入り参加」受け入れについては、16団体が受け入れることとなり、プラカード保持者が目印をなるタスキを着用して「飛び入り参加」が可能であることをアピールした。友人同士で踊りの輪に加わる方も見受けられ、見る人も一緒に楽しむことができる「はまらいんや踊り」となった。

こまめな休憩を挟みながら進行し、参加団体はそれぞれが趣向を凝らした衣装と踊りを披露した。参加者も観客もまつりを堪能し、熱気溢れた「はまらいんや踊り」となった。



<8月3日(日)>

### (3) 水上サイクリング

10時から内湾海上の一区画を使い、「水上サイクリング」体験を行った。まちなかエリアプラットフォームで企画された本アクティビティがみなとまつり内で実施されたのは今回が初めてで、気仙沼青年会議所が中心となり準備や当日の運営を担った。普段あまり体験することができないアクティビティに対し、当所予定していた枠を大きく上回る36組もの体験申し込みがあり、たくさんの家族連れで賑わった。



### (4) みなとまつりパレード(参加12団体、約570名)

「みなとまつりパレード」は会場を港町臨港道路とし、スタートをローソン港町店前、ゴールをみちのく建設工業前に設定し、停止演技場所はスタート地点付近と本部前ステージ付近の2箇所にて設けた。司会進行は、岩手佳代子さんと気仙沼青年会議所の阿部純さんに務めていただいた。

11時50分からパレード出発式を行い、会長、実行委員長、主催団体長、インドネシア共和国駐日大使代理参事官、来賓等によるテープカットを陸上自衛隊東北方面音楽隊のファンファーレで行った。正午からは、会長、実行委員長、公使参事官及びホヤぼーやを乗せた自衛隊高機動車を先頭にパレードがスタートした。

音楽隊の行進につづき、打ちばやし巡行や虎舞演舞、バンド演奏、神輿渡御など伝統あるパレードやインドネシアパレード、よさこい演舞などの趣向を凝らしたパレードが進行し、沿道に集まった観客からは、大きな拍手や歓声が起こるなど盛り上がりを見せた。みなとまつりに対する市外からの関心の高まりもあり、今年は仙台からのすずめ踊り団体が参加し、市内外の団体間の交流の様子も見られた。



## (5) 第20回カッター競漕大会（参加18チーム）

「カッター競漕大会」は、内湾エリアを会場に往復約450mのコースを設け、3艇でのタイムレース形式で実施した。今年は震災後最多の出場チーム数となり、全18チームによる熱いレースが繰り広げられた。20回目の開催となった今回は様々な企業から賞品をご提供いただいた。また、過去全大会に出場した「DRUNKERD」には連続参加記念の賞状を贈った。競技の結果、過去14回の出場経験を持つ「『大島』 やや火消しの椿」が4年連続6回目の優勝を飾った。



## (6) YEG主管「夕の部ステージ」

15時00分から、商工会議所青年部が主管し気仙沼市内の団体やアーティストによるステージイベントを行った。高校生によるバンド演奏、ダンススクールSMILEY×虹組によるダンス発表、SCK GIRLS with ホヤぼーやによるパフォーマンスと続き、最後は昨年みなと気仙沼大使に任命された歌手のFRAMさんによるLIVEステージが行われ、多彩なパフォーマンスで観客を魅了した。



## (7) 夕の部セレモニー

17時から本部前特設ステージにて、夕の部の始まりを告げるセレモニーを実施。司会進行は地元出身のフリーアナウンサーである菅原克彦さんに務めていただいた。ご来賓や主催団体長登壇の中、気仙沼みなとまつり委員会実行委員長菅原昭彦商工会議所会頭の挨拶に続き、友好都市である一関市、東京都目黒区、平泉町からのご来賓の方々の紹介が行われた。

## (8) 打ちばやし大競演（参加28団体、約700名）

17時30分からの「打ちばやし大競演」では、会場の港町臨港道路（神興冷機前からみちのく建設前）に和太鼓団体28団体が集結し、約700名の打ち手が580基余りの太鼓を並べ演奏を披露した。

演奏の前に参加打ちばやし団体が紹介され、その後、太鼓学舎ねの中村真那斗さんによる「初っ切り太鼓」を皮切りに、打ちばやし大競演がスタートした。

今年はプログラムの進行を見直し、大競演で演奏する6曲の紹介を織り交ぜ、楽曲の歴史を伝える時間も設けた。19時からはシンガーソングライターの熊谷育美氏が特設ステージに登壇、打ちばやしの演奏と共に「安波囃子」、「けんばやし」、「海潮音（みしおね）」の3曲に合わせて歌を披露した。



### (9) さんま船集魚灯披露

平成25年（第62回）からご協力をいただいている第八十一豊清丸による「さんま船集魚灯」披露は、夜の港町を明るく照らし、普段は見ることのできない集魚灯を灯したさんま船のまばゆい姿は来場者に感動を与えた。



### (10) うんづら

（一社）気仙沼青年会議所の「うんづら」は、みなとまつりで大漁と海上安全を願う象徴として今年も実施された。「うんづら」をまつり本部前に設置し「打ちばやし大競演」と共に太鼓演奏を行った。

（一社）気仙沼青年会議所メンバーの心意気にあふれた太鼓演奏は、今年新調した七福神の輝きとともに観客を魅了した。



### (11) 海上打上花火

今年も「海上打上花火」が、20時からまつりのフィナーレを飾った。今年も県内の花火業者である芳賀火工の花火師が、気仙沼の夜空に華麗な花火を打ち上げた。

今年は打ち上げの間隔を短くしプログラムの充実感を向上させるため、主に小型～中型サイズの花火やスターマインを中心に約3,000発を打ち上げた。矢継ぎ早に打ちあがる花火に会場からは大きな歓声が上がった。風が少なく煙が滞留してしまうこともあったが、打ちばやし大競演やうんづら、さんま船集魚灯とのコラボレーションが、気仙沼のまつりの夜を華やかに彩った。

### (12) 露店コーナー

昨年度と同様、旧アベキ様駐車場と岡本製氷様駐車場2か所を露店コーナーとし、27店舗が出店。1日目は16時30分、2日目は11時から開店し、小さい子ども連れなど多くの来場者で賑わった。

## 3. 協賛行事などについて

### (1) 気仙沼みなとまつり謎解きイベント

(一社)気仙沼青年会議所による協賛行事「青少年夢企画『謎解きイベント』～イタズラおぼけからの挑戦状～」がまつり会場区域を舞台に開催された。来場者がまつり会場を楽しく周遊するためのアクティビティとして企画され、多くの来場者が参加した。全問正解した人にはプレゼントが贈られた。参加者はまつり会場全体に散りばめられた問題に答えながら楽しく会場を巡った。

### (2) ないわん昼市・夜市

気仙沼まちなかプラットフォームの主催で、南町海岸公園で行われる毎月恒例のないわん朝市のまつり版である「ないわん昼市・夜市」が、3日(土)は16時から21時まで、4日(日)は11時から21時まで、2日間にわたりで開催された。会場には36店舗が出店し、まつりに合わせて多くの来場者が訪れ、賑わいを見せた。

## 4. 人 出

まつり当日の人出は、8月2日(土)が35,000人(昨年比1,000人減)、3日(日)が昼の部15,000人・夕の部39,000人の計54,000人(昨年比1,000人増)となった。二日間合計では89,000人(昨年同)となった。

## 5. 天 候

### ◇ 8月2日(土)

初日は、終日曇り。時折小雨が混じり、風がなく湿度が90%の状態が続き、熱中症の危険が懸念される天候となった。(最高気温29.9度 18時頃の気温26.7度)

## ◇ 8月3日（日）

2日目は、終日曇り。時折小雨が混じり、風がなく湿度が90%の状態が続き、前日と同様熱中症の危険が懸念される天候となった。（最高気温29.5度 18時頃の気温26.8度）

## 6. 出 動

	今年度（73回）	昨年度（72回）
気仙沼警察署	非公開	80 人
気仙沼市交通指導隊	32 人	45 人
気仙沼市防犯実働隊	40 人	51 人
気仙沼市海上保安署	7 人	7 人
気仙沼消防署（消防本部含む）	31 人	29 人
気仙沼消防団	129 人	131 人
気仙沼市役所	259 人	302 人
（公社）気仙沼シルバー人材センター	31 人	14 人
警備艇	15 人	12 人
警備部会・警備会社	109 人	70 人
気仙沼商工会議所	31 人	30 人
早稲田大学 学生ボランティア	42 人	32 人
合計		803 人

※2日間の延べ人数

## 7. 警備・交通規制

昨年と同様に、全ての行事を震災以前の会場（港町臨港道路内～内湾エリア）で開催するにあたり、一部区間（ローソンみなと町店からお魚いちばまでのホテル観洋下の道路は北進のみの片側一車線通行）を除き、2日（土）は16時から21時まで、3日（日）は11時から21時30分まで、会場付近一帯を車両通行禁止とした。会場近辺の来場者の動線確保と混雑緩和のため、規制区間の車両と人が交差するポイントなどにコーン・バーや警備員を配置し安全確保に努めた。

港町の岸壁については、海中転落などの危険を防止するため、近辺にコーン・バーや警備員を配置し立入禁止の注意喚起に努めた。また、万が一に備え、岸壁付近に救命用浮き輪やハンゴを設置した。まつり委員会の警備計画のほかに、市職員の有志やボランティアなど独自の人員を会場付近や駐車場などに配置し警備にあたった。

## 8. 事 故（カッコ内は昨年の数字）

まつり期間中に会場付近で発生した事故等の件数は以下の通り。

- ・ 人身事故 0件（0件）      ・ 物損事故 0件（0件）      ・ けが(急病)3件（0件）
- ・ 遺失物 14件（22件）      ・ 拾得物 57件（68件）      ・ 迷子 2件（2件）

気仙沼警察署や気仙沼海上保安署、気仙沼消防署ほか警備に携っていただいた各団体の協力に感謝する。

## 9. 清 掃

まつり会場内にエコステーションを設置し、本年も学生ボランティアの呼びかけにより、来場者には分別の徹底やゴミの持ち帰りに協力をいただいた。

会場周辺の清掃については、8月3日（日）・4日（月）両日ともに南町・内湾地区・港町において下記の団体の協力をいただき実施することができた。

### 早朝清掃協力者

（公社）気仙沼シルバー人材センター、市民憲章推進協議会気仙沼地区部会、気仙沼海友会、全国海友婦人会気仙沼支部、気仙沼市婦人連絡協議会中央婦人会、  
株気仙沼商会、気仙沼市役所、気仙沼商工会議所